

住民主体で**高齢者生活支援体制を整備**するには？

～すいたの年輪ネット 専門職向け研修会～

日 時：令和 4 年 12 月 9 日（金）午後 2 時～午後 3 時 30 分

場 所：千里山コミュニティセンター

参加者数：26 事業者 33 人（アンケート回答者 21 人）

●研修会の内容

第 1 部 基調講演

高齢者生活支援体制整備事業の意義・目的 ～地域づくりの視点とは～

講師 佛教大学 専門職キャリアサポートセンター 金田 喜弘 氏

第 2 部 パネルディスカッション

吹田で取組まれている高齢者生活支援体制整備事業の紹介

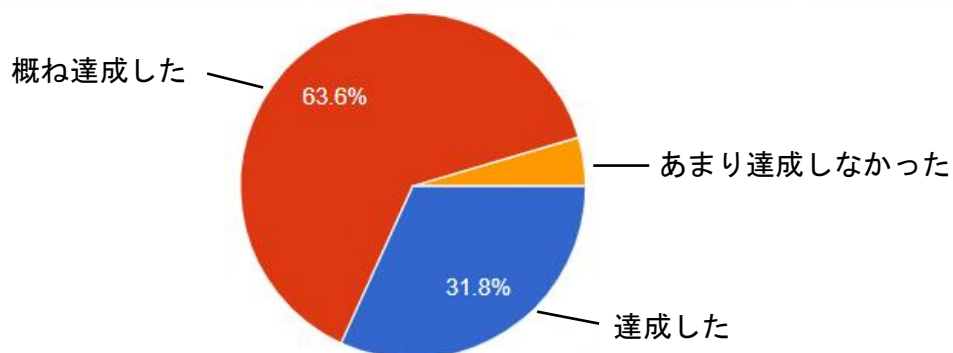
コーディネーター：佛教大学 専門職キャリアサポートセンター 金田 喜弘 氏

パネラー：吹田市千里山西地域包括支援センター センター長 山本 恵古 氏

吹田市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 新宅 太郎

●主なアンケート結果

本研修会で学びたいこと・知りたいこと・確認したいことは達成されましたか。



（主な意見）

- ①地域の高齢者を見守って行く上での他業種連携の必要性を感じた。
- ②地域包括支援センター主体、介護保険事業者主体でなく、地域住民との協働作業で住みよい街づくりを目指していきたい
- ③住民主体で取組む大切さを知った。
- ④第 2 部の before/after それぞれ良さがあると感じた。スピード感、ニーズ、継続性、協力者の集め方など、大切にすべき要素が沢山あるのだと勉強になった。
- ⑤講演だけではイメージできなかったことが、実際の事例を通して見えてきた。「目的ありき」ではなく「試行錯誤をしながら」の方が逆に住民意識の醸成につながると思った。